



まつやま

主な内容 No.1213

- 第46回子規顕彰小中高生俳句大会…4・5面
- 第13回学生による政策論文表彰式……2面
- 第13回コムズフェスティバル ……6面
- 市民ガイド ……7・8面



無料メルマガ配信中!

松山Smile通信 検索

発行:松山市役所/編集:総合政策部広報課/毎月1日・15日 ☎948-6705 FAX 934-2578 HP <http://www.city.matsuyama.ehime.jp/>

市勢 平成23年12月1日現在推計(前月比) ●面積:429.05km² ●人口:516,321人(+51) ●男:241,420人 ●女:274,901人 ●世帯数:229,983世帯(+44) ●一帯の平均:2.25人 ●人口密度:1,203人/km²



五明の里

継がれゆく風習と技

三世代で編むしめ飾り



三世代が集まるしめ飾り作りは師走の風物詩



地域のお年寄りからわらの編み方を習う子ども

交流から人づくり地域づくり

「おばあちゃんちの玄関に飾ろうかな」。五明地区では、地域の子どもからお年寄りまでの住民三世代でしめ飾りを作るのが師走の風物詩です。「しめ飾り」は昔から正月の演出に欠かせないアイテム。新年に戸口に飾ることで特別な場所であることを示すとともに、邪悪なものへの侵入を防ぐといわれています。

12月11日、五明小学校体育館に子どもたちが育て刈り取ったもち米のわらが到着。幼稚園児・小学校児童41人と保護者は地域の高齢クラブ員らから編み方を習い見よう見まねで挑戦するも、思うようになりません。お年寄りの手を借りやつのことで縄状になると、ほっとした表情に。子どもらは完成したしめ飾りを満足気に握りしめ、友達に自慢していました。

高年齢クラブの中谷昭和さん(菅沢町)は「地元の風習を伝えるとともに、この交流を人づくり地域づくりにつなげたい」と話しました。

「これからは、ぼくたちが小さい子の手本になれるようがんばって覚えたい」と力強く語ったのは山本恵介くん(五明小5年)。地域にしっかりと伝承の技が受け継がれていきます。



新しい年が笑顔あふれる年になりますように

近年の地方行政を取り巻く環境は依然厳しく、生活保護費をはじめ、医療・介護・福祉などの民生費の増加により、厳しい財政運営が続いています。このような中、昨年発生した東日本大震災は、被災地域のみならず日本経済・国民生活にも大きな打撃を与えました。

一方で、本市においては子規記念博物館が開館30周年を迎えるなど、記念すべき年でもありました。

また、私が市長に就任し、本格的に公約の実現に向け



開始した一年でもあり、皆さんにも積極的に市政に参加していただきながら、市民が主役のまちづくりに全身全霊で取り組んでまいりました。

本年は、平成14年以来、2回目のプロ野球オールスターゲームが坊っちゃんスタジアムで開催されます。地球場での2回目の開催は初めてのことで、「野球王国松山」の熱い思いが評価され実現したものです。

スポーツは人、そしてまちに元気を与えてくれます。これからも「誇れる」まちの長所を活かし一人でも多くの人を笑顔にしていきたいと思えます。

松山市長 野志 克 仁

昨年の3月11日に発生した東日本大震災は、福島第一原発事故も重なる未曾有の大災害となり、被災地においては、いまだ復興の目途が立っておりません。また、近年の低迷する経済情勢は地方にも深刻な影響を与えております。

本市でも、このような課題に対応した安全安心なまちづくりや安定した生活が送れる経済・雇用対策などが重要になっております。こうした状況を受け、市

議会として、防災対策の充実や地域経済の活性化を目指す、積極的に声を上げていくべきだと考えております。

さらに、地域の自主性および自立性を高め、「地域のことは、地域で定める」という信念のもと、地域主権に対応した議会制度、開かれた議会づくりなど議会改革にも全力を傾注してまいりますので、皆様には力強いご支援とご協力をお願い申し上げます。

年頭に当たり、皆様方のご多幸を心から祈念いたしまして、新年のごあいさつといたします。

松山市議会議員 寺井 克 之

保存してください。いつかまた お役に立ちます